

2-2 調査成績（施設野菜）

施設野菜の部 No.1

項目：品種特性調査

調査名：種子繁殖型いちご品種「よつぼし」の品種特性調査（継続：令和3年度～令和5年度）

1 目的 種子繁殖型いちご品種「よつぼし」について、収量・品質等の品種特性を調査し、栽培上の資料とする。

2 調査方法

- (1) 調査場所 パイプハウス4号（132㎡：約40坪）
- (2) 耕種概要
- 栽培方法 養液土耕栽培
 - は種月日 令和3年5月14日（406穴セルトレイ）
 - 移植月日 令和3年6月29日（10.5cmポット）
※406穴セルトレイ苗を購入、納品後直ちにポットに移植
 - 夜冷処理期間 令和3年7月29日～8月26日
 - 夜冷処理日数 29日
 - 夜冷処理方法 短日処理 8時間日長（16時30分～翌8時30分遮光）
夜冷処理 13～15℃（16時30分～翌8時30分）
 - 育苗日数 <1><2>105日、<3>133日
 - 定植年月日 <1><2>令和3年8月27日、<3>令和3年9月24日
 - 栽植距離 うね幅110cm、ベッド幅70cm、株間25cm、2条植え
 - 定植株数 640株/棟
 - 施肥量 N-P-K=1.33-0.62-1.53kg/a
【基肥】有機アグレット816（8-1-6）：7.5kg/a
【追肥】大塚養液土耕6号（13.5-10-20）：5.4kg/a
 - 使用資材 アヅミン（Mg:3%）：5kg/a、ハイフミン・ハイブリット：30kg/a、
あったかマルチ
 - 収穫期間 令和3年10月25日～令和4年6月17日
 - 保温 内カーテン：令和3年11月10日～令和4年5月16日
 - 加温 温風暖房機（5℃設定）：
令和3年11月10日～令和4年4月20日
 - 薬剤散布 24回（成分回数）
- (3) 調査区の構成
- 調査区 3区（1区10株、1区制）
<1>夜冷短日処理区
<2>電照長日処理区（定植後2週間24時間日長処理）
<3>9月下旬定植区
 - 供試品種 よつぼし（三重県・香川県・千葉県・農研機構）
- (4) 調査項目 生育、収量、品質

3 結果の概要

- (1) 本年度の結果
- 生育
収穫開始は、「電照長日処理区」でやや早かった。「夜冷短日処理区」もほぼ同じ時期からの収穫開始となったが、「9月下旬定植区」は12月上旬からの収穫開始となった。
病害虫については、5月からうどんこ病が発生したが、「よつぼし」では発生が少なかった。
 - 収量
「夜冷短日処理区」では、1株収量は483.4g、10a換算収量は2,344kgであり、最も多かった。
月別収量で比較すると収穫開始から3月までは「夜冷短日処理区」と「電照長日処理区」で多かったが、4月中旬以降は「9月下旬定植区」で多い結果となった。
 - 品質
平均果重は「夜冷短日処理区」で15.3gと最も大きく、「9月下旬定植区」で11.1g

と最も小さかった。秀品率は「夜冷短日処理区」で最も高く、10a 換算秀品収量でも2,188kg と最も優れていた。

- (2) 次年度以降の計画
継続

表1 生育調査

調査区名	草丈 (cm)	展開葉 (枚)	葉柄長 (cm)	葉長 (cm)	葉幅長 (cm)	芽数 (芽)	クラウン 径 (mm)
夜冷短日処理区	30.6	-	18.8	12.5	9.8	-	20.1
電照長日処理区	32.8	-	19.3	13.7	10.5	-	21.0
9月下旬定植区	21.8	-	12.1	10.0	8.1	-	14.4

表2 収量調査 (10株当たり)

(単位: g、個)

調査区名	3L (35g以上)		2L (25~35g未満)		L (15~25g未満)		M (11g~15g未満)		S (7~11g未満)	
	個数	収量	個数	収量	個数	収量	個数	収量	個数	収量
夜冷短日処理区	6	217	24	695	120	2,224	76	973	68	608
電照長日処理区	2	77	26	669	104	1,929	76	957	80	735
9月下旬定植区	0	0	10	263	51	930	66	816	109	954

表2つづき

調査区名	小果・奇形果		合計		等級割合 (%:重量ベース)					
	個数	収量	個数	収量	3L	2L	L	M	S	小・奇形
夜冷短日処理区	21	117	315	4,834	1.9	7.6	38.1	24.1	21.6	6.7
電照長日処理区	47	238	335	4,605	0.6	7.8	31.0	22.7	23.9	14.0
9月下旬定植区	60	311	296	3,274	0.0	3.4	17.2	22.3	36.8	20.3

表2つづき

調査区名	平均 果重	1株 収量 (g)	1棟(132㎡) 換算収量 (kg)	10a換算 収量 (kg)	秀品率 (%)	10a換算秀品 収量 (kg)
夜冷短日処理区	15.3	483.4	309.4	2,344	93.3	2,188
電照長日処理区	13.7	460.5	294.7	2,233	86.0	1,919
9月下旬定植区	11.1	327.4	209.5	1,587	79.7	1,266

表3 品質調査

測定日	よつぼし		
	糖度 (Brix%)	酸度 (%)	硬度 (kg)
12月10日	12.5	2.65	0.96
2月14日	12.8	2.20	0.90
3月11日	11.8	1.90	0.89

※各測定日に収穫した5果当たりの平均値。

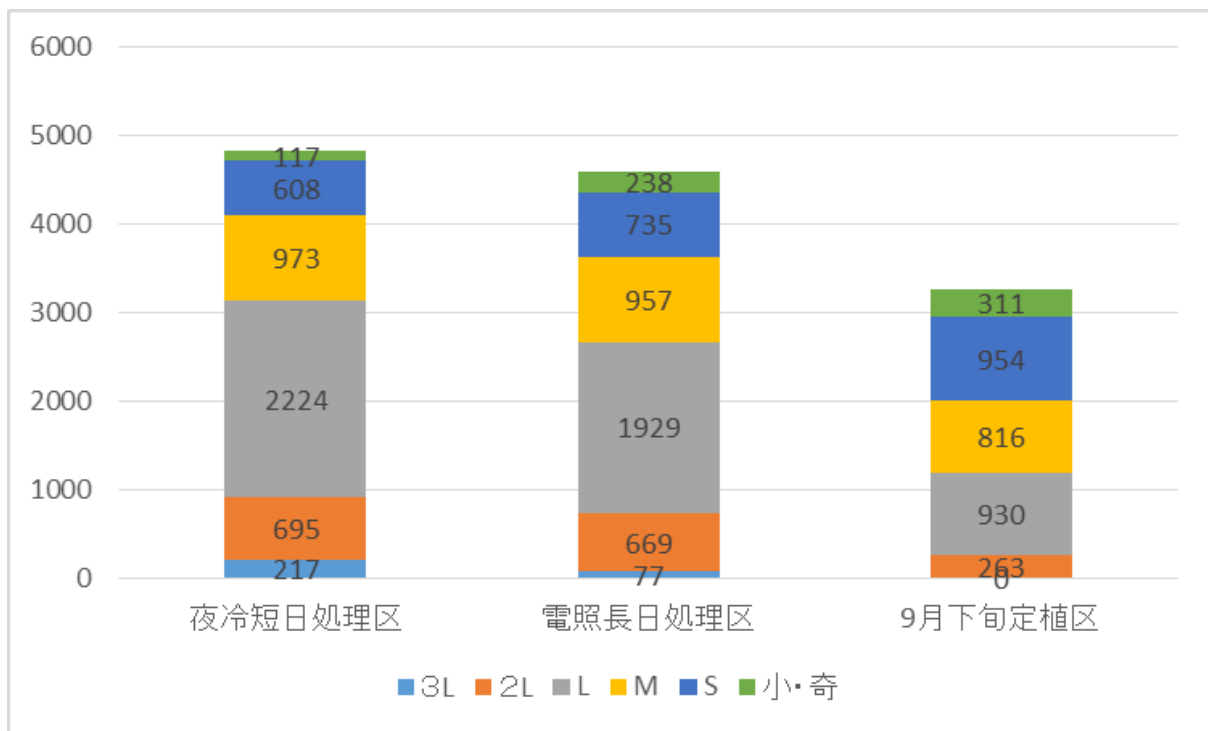


図1 等級別収量 (g) (10株当たり)

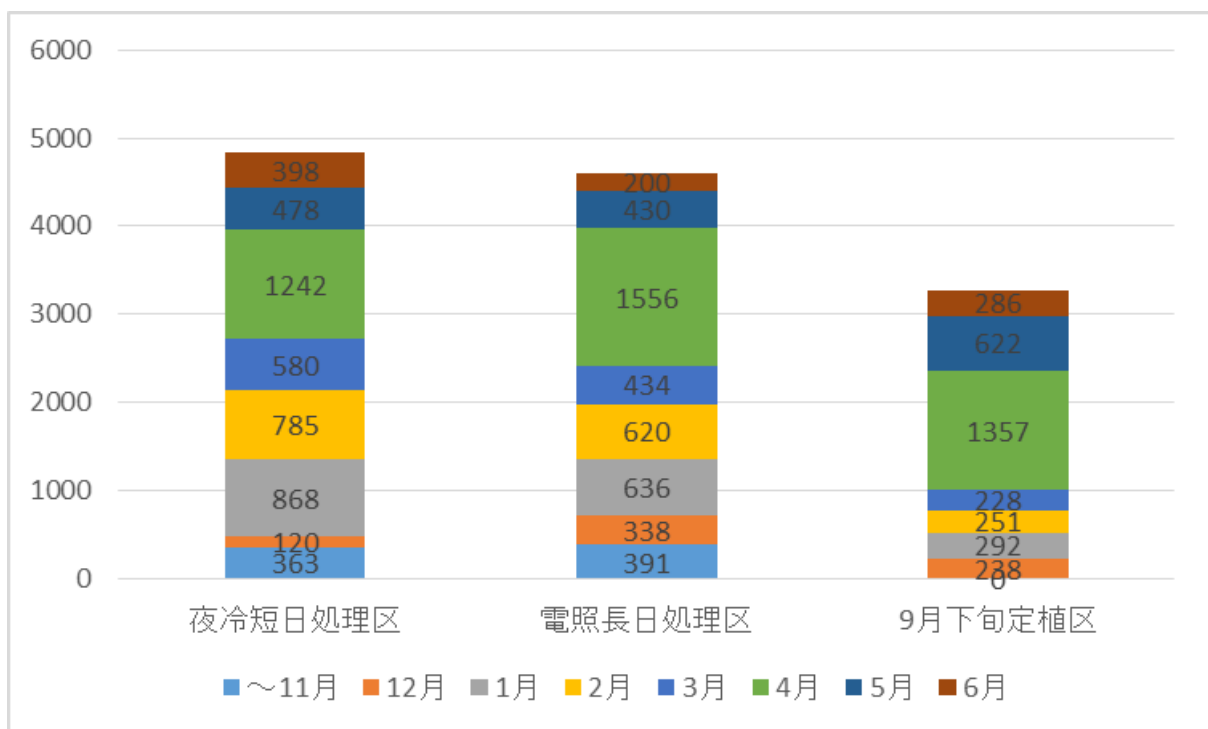


図2 月別収量 (g) (10株当たり)

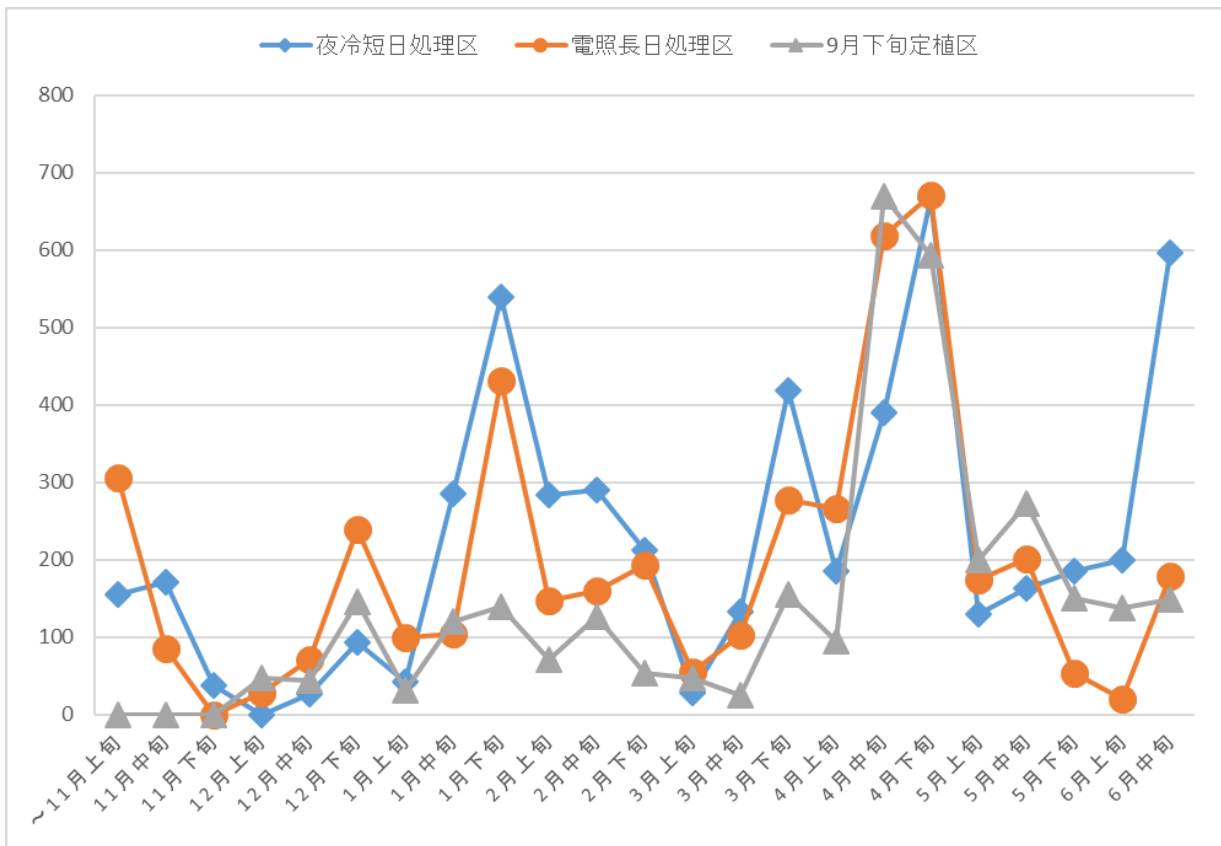


図3 旬別収量 (g) (10株当たり)

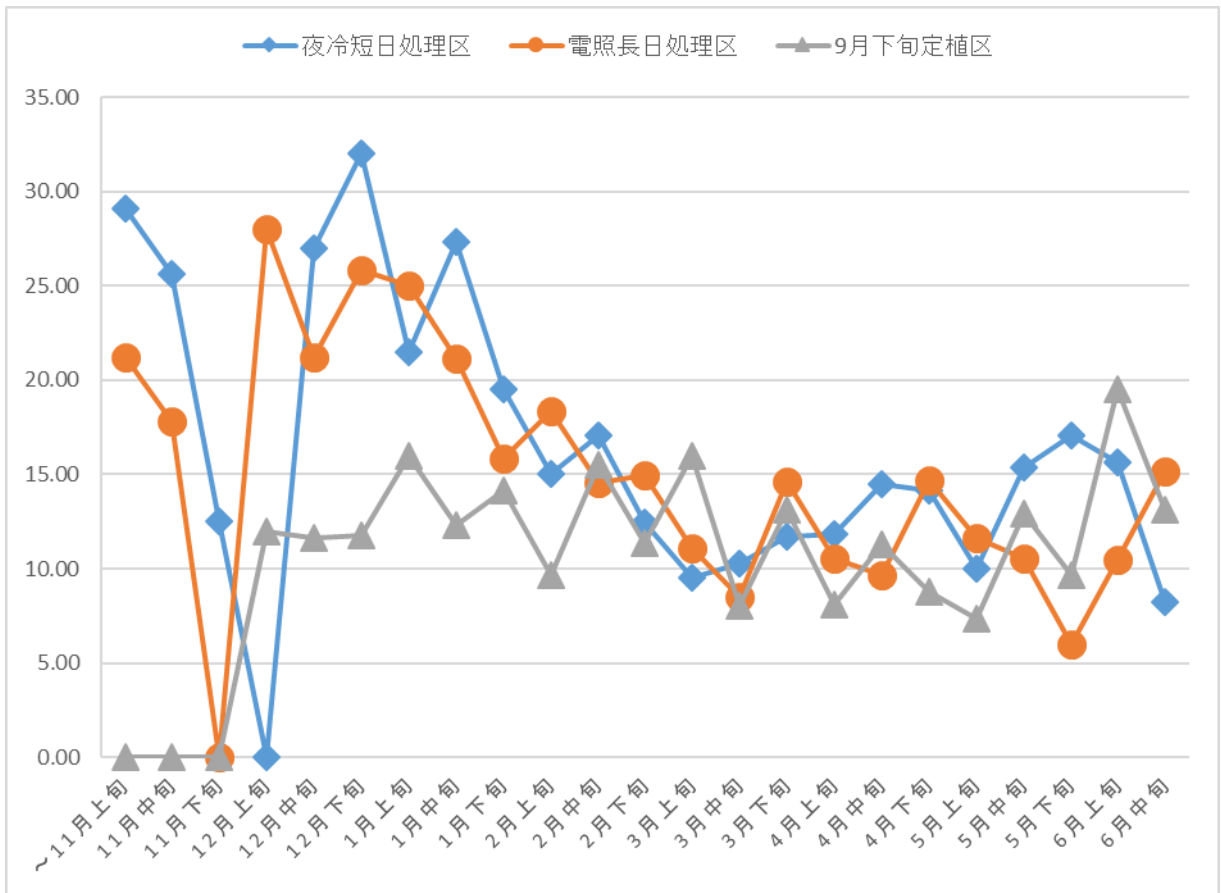


図4 旬別平均果重 (g) (10株当たり)

施設野菜の部 No.2

項目：品種特性調査

調査名：種子繁殖型いちご品種の品種特性調査（新規：令和4年度～令和5年度）

- 1 目的 新種子繁殖型いちご品種「すず」、「はるひ」について、収量・品質等の品種特性を調査し、栽培上の資料とする。

2 調査方法

- (1) 調査場所 パイプハウス4号 (132 m² : 約40坪)
- (2) 耕種概要
- 1) 栽培方法 養液土耕栽培
 - 2) は種月日 令和3年5月14日 (406穴セルトレイ)
 - 3) 移植月日 令和3年6月29日 (10.5cmポット)
※406穴セルトレイ苗を購入、納品後直ちにポットに移植
 - 7) 育苗日数 133日
 - 8) 定植年月日 令和3年9月24日
 - 9) 栽植距離 うね幅110cm、ベッド幅70cm、株間25cm、2条植え
 - 10) 定植株数 640株/棟
 - 11) 施肥量 N-P-K=1.33-0.62-1.53kg/a
【基肥】有機アグレット816 (8-1-6) : 7.5kg/a
【追肥】大塚養液土耕6号 (13.5-10-20) : 5.4kg/a
 - 12) 使用資材 アヅミン (Mg:3%) : 5kg/a、ハイフミン・ハイブリット : 30kg/a、あったかマルチ
 - 13) 収穫期間 令和3年12月3日～令和4年6月17日
 - 14) 保温 内カーテン : 令和3年11月10日～令和4年5月16日
 - 15) 加温 温風暖房機 (5℃設定) :
令和3年11月10日～令和4年4月20日
 - 16) 薬剤散布 24回 (成分回数)
- (3) 調査区の構成
- 1) 調査区 3区 (1区10株、1区制)
 - 2) 供試品種 <1>すず (株ミヨシ・三好アグリテック(株)・三重県)
<2>はるひ (株ミヨシ・三好アグリテック(株))
<3>よつぼし (三重県・香川県・千葉県・農研機構)
- (4) 調査項目 生育、収量、品質

3 結果の概要

- (1) 本年度の結果
- 1) 生育
収穫開始は、「よつぼし」で最も早く、12月20日から始まった。「すず」では遅れて12月下旬から収穫開始となったが、「はるひ」では大幅に遅れて4月からの収穫開始となった。
病害虫については、ほぼ発生は見られなかった。
 - 2) 収量
「すず」では、1株収量は342.1g、10a換算収量は1,659kgであり、最も多い結果となった。
月別収量で比較すると、3月までは「よつぼし」で最も多く、「はるひ」ではこの期間において収穫がなかったが、4月以降は「すず」「はるひ」「よつぼし」の順に収穫量が多かった。
 - 3) 品質
平均果重は「はるひ」で15.2gと最も大きく、「よつぼし」で11.1gと最も小さかった。秀品率は「よつぼし」で79.7%と最も優れていたが、10a換算秀品収量では「すず」が1,312kgと最も優れていた。
- (2) 次年度以降の計画

継続

表1 生育調査

調査区名	草丈 (cm)	展開葉 (枚)	葉柄長 (cm)	葉長 (cm)	葉幅長 (cm)	芽数 (芽)	クラウン 径 (mm)
すず	31.6	-	18.2	13.6	11.1	-	14.8
はるひ	28.3	-	16.8	13.7	11.1	-	13.6
よつぼし	21.8	-	12.1	10.0	8.1	-	14.4

表2 収量調査 (10株当たり)

(単位: g、個)

調査区名	3L (35g以上)		2L (25~35g未満)		L (15~25g未満)		M (11g~15g未満)		S (7~11g未満)	
	個数	収量	個数	収量	個数	収量	個数	収量	個数	収量
すず	2	72	17	479	62	1,130	58	748	77	693
はるひ	3	116	26	775	53	961	21	253	30	270
よつぼし	0	0	10	263	51	930	66	816	109	954

表2つづき

調査区名	小果・奇形果		合計		等級割合 (%:重量ベース)					
	個数	収量	個数	収量	3L	2L	L	M	S	小・奇形
すず	57	299	273	3,421	0.7	6.2	22.7	21.2	28.2	20.9
はるひ	36	189	169	2,564	1.8	15.4	31.4	12.4	17.8	21.3
よつぼし	60	311	296	3,274	0.0	3.4	17.2	22.3	36.8	20.3

表2つづき

調査区名	平均 果重	1株 収量 (g)	1棟 (132m ²) 換算収量 (kg)	10a換算 収量 (kg)	秀品率 (%)	10a換算秀品 収量 (kg)
すず	12.5	342.1	218.9	1,659	79.1	1,312
はるひ	15.2	256.4	164.1	1,243	78.7	978
よつぼし	11.1	327.4	209.5	1,587	79.7	1,266

表3 品質調査

測定日	すず			はるひ			よつぼし		
	糖度 (Brix%)	酸度 (%)	硬度 (kg)	糖度 (Brix%)	酸度 (%)	硬度 (kg)	糖度 (Brix%)	酸度 (%)	硬度 (kg)
12月10日	-	-	-	-	-	-	12.5	2.65	0.96
2月14日	16.3	2.55	0.98	-	-	-	12.8	2.20	0.90
3月11日	16.3	1.95	0.92	-	-	-	11.8	1.90	0.89

※各測定日に収穫した5果当たりの平均値。

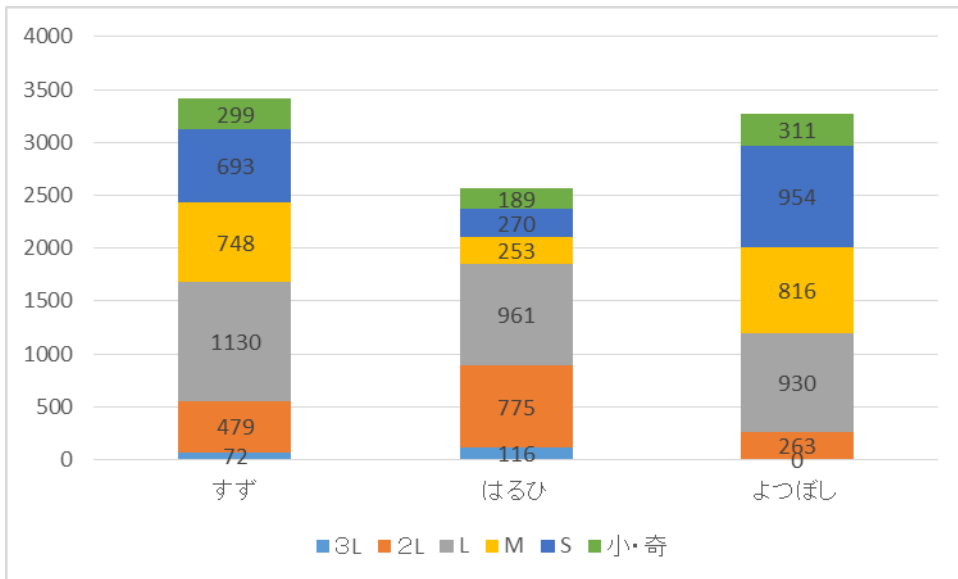


図1 等級別収量 (g) (10株当たり)

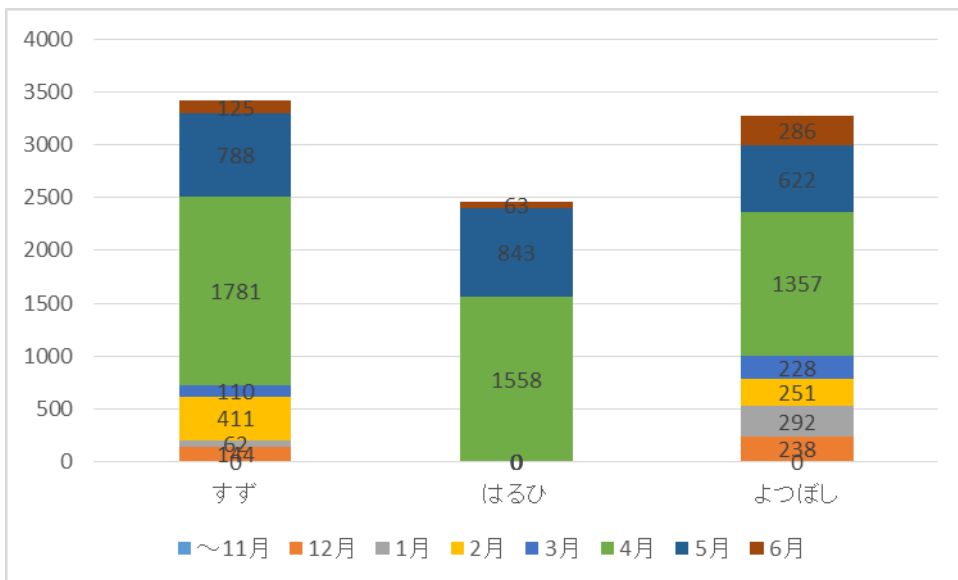


図2 月別収量 (g) (10株当たり)

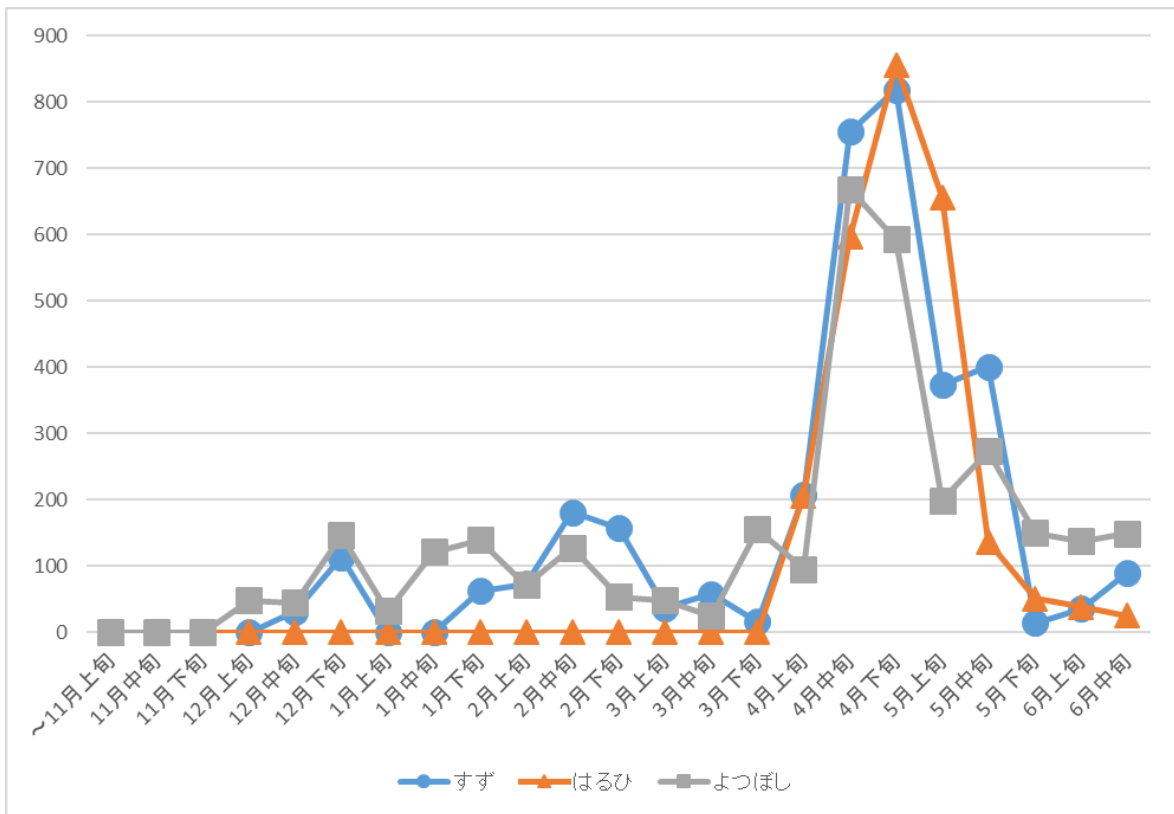


図3 旬別収量 (g) (10株当たり)

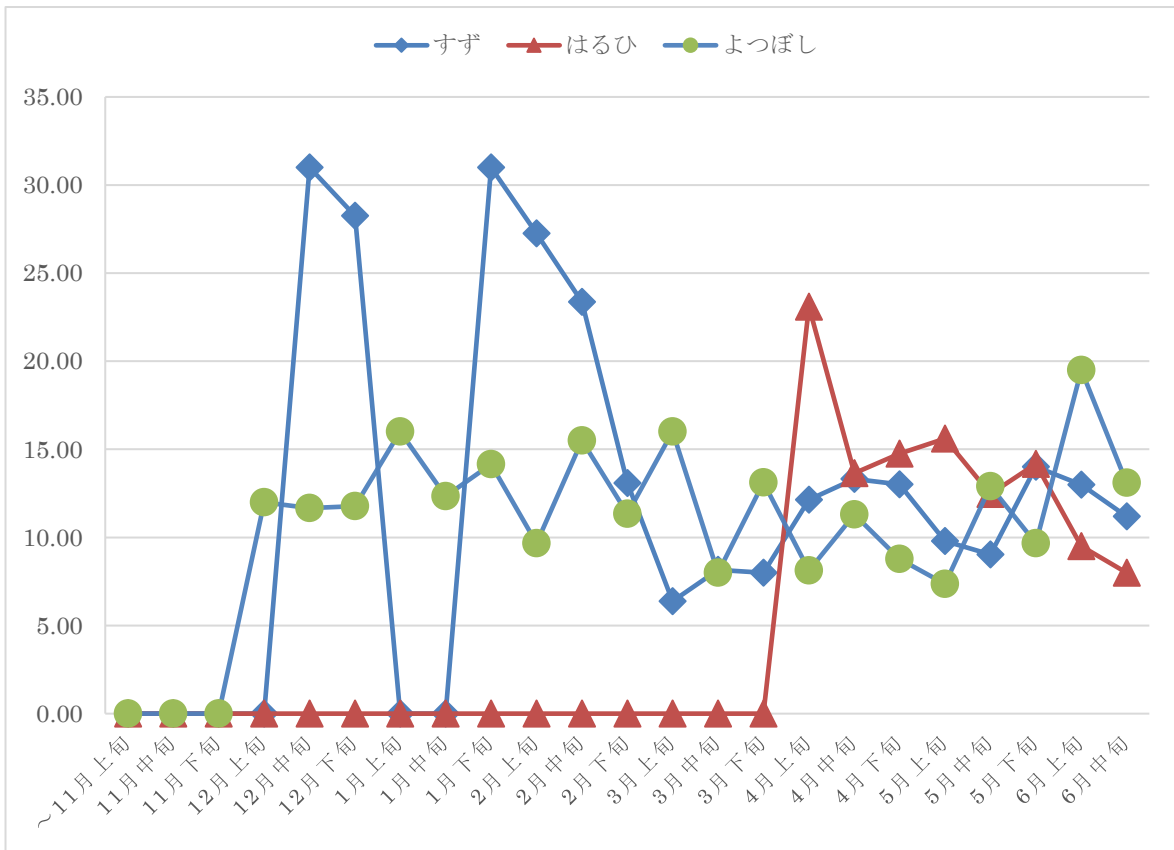


図4 旬別平均果重 (g) (10株当たり)

施設野菜の部 No.3

項目：品種比較調査

調査名：トマトの促成栽培における品種比較調査（新規：令和4年度～令和6年度）

- 1 目的 トマトの促成栽培について品種比較調査をすることで、当地域に適した有望品種の選定を行う際の参考資料とする。

2 調査方法

- (1) 調査場所 ガラス温室5号（165 m²：約50坪）
- (2) 耕種概要
- 1) 栽培方法 養液土耕栽培
 - 2) は種月日 令和3年12月27日（144穴トレイ）
 - 3) 移植月日 令和4年1月21日（12cmポット）
 - 4) 定植月日 令和4年2月22日
 - 5) 育苗日数 57日
 - 6) 栽植距離 ベッド幅100cm、株間40cm、2条植え
 - 7) 定植株数 320株/棟
 - 8) 施肥量 N-P-K=1.44-1.30-2.52kg/a
【肥料】大塚養液土耕5号（12-20-20、～収穫前）：3.6kg/a
大塚養液土耕2号（14-8-25、収穫開始～）：7.2kg/a
 - 9) 使用資材 ハイフミンハイブリッドG（微生物資材）：30kg/a、アヅミン（Mg:3%）：3kg/a、あつたかマルチ、白黒ダブルマルチ
 - 10) 収穫期間 令和4年6月13日～7月29日
 - 11) 保温 内カーテン：令和4年2月22日～令和4年5月16日
 - 12) 加温 温風暖房機（12℃設定）：令和4年2月22日～令和4年5月12日
 - 13) 薬剤散布 5回（成分回数）
※うね毎に1本、株上にラノーテープ剤を設置。
 - 14) 摘心 令和4年5月31日（8段程度）
- (3) 調査区の構成
- 1) 調査区 4区（1区10株、1区制）
 - 2) 供試品種
<1> みそら64 (みかど協和(株))
<2> CF桃太郎はるか (タキイ種苗(株))
<3> 桃太郎ネクスト (タキイ種苗(株))
<4> 麗月 (株サカタのタネ)
- (4) 調査項目 生育、収量、糖度

3 結果の概要

- (1) 本年度の結果
- 1) 生育
定植時の生育調査では、「桃太郎はるか」で草丈が高くなり、「みそら64」で最も低くなった。
病害虫では、終盤にネコブセンチュウによる被害が散見され、草勢が低下したことにより果実の肥大が進まなかったため、収量が低下した。
 - 2) 収量
10a換算収量は「麗月」で最も多かった。「桃太郎ネクスト」では、肥培管理の状況及びネコブセンチュウによる被害の影響により草勢がやや弱くなった結果、収量が最も少なかった。また、月別収量で最も多かったのは、5月は「CF桃太郎はるか」、6、7月は「麗月」であった。
 - 3) 品質
平均1果重は「桃太郎はるか」で最も大きく、「みそら64」で最も小さかった。上物率は「麗月」が高く、「みそら64」で低かった。10a換算上物収量は「麗月」が最も高かった。
- (2) 次年度以降の計画
継続

表 1 生育調査 (10 株平均)

品種名		草丈 (cm)	葉数 (枚)	第 1 果房 の節位	節間長 (cm)	葉長 (cm)	茎径 (mm)
みそら 64	定植時	31.0	10.3	6.6	-	30.2	8.1
	収穫開始時	95.6	17.3	-	5.5	29.9	15.1
CF 桃太郎はるか	定植時	36.8	10.6	7.5	-	24.0	11.1
	収穫開始時	165.5	23.6	-	7.0	35.8	12.3
桃太郎ネクスト	定植時	35.3	10.3	6.3	-	28.4	6.5
	収穫開始時	120.0	19.5	-	6.2	32.6	10.4
麗月	定植時	36.2	9.3	6.7	-	26.5	6.6
	収穫開始時	-	-	-	-	-	-

表 2 収量調査 (10 株当たり)

品種名	上物		下物		合計	
	果数	収量(g)	果数	収量(g)	果数	収量(g)
みそら64	72	10,262	39	4,815	111	15,077
CF桃太郎はるか	130	27,837	40	7,649	170	35,486
桃太郎ネクスト	76	11,283	20	2,722	96	14,005
麗月	208	36,417	29	3,469	237	39,886

表 2 つづき

品種名	1株換算 収量(g)	平均1果重 (g)	上物率 (%)	1棟換算 収量 (t)	10a換算 収量(t)	10a換算 上物収量 (t)
みそら64	3,015	135.8	68.1	0.5	2.9	2.0
CF桃太郎はるか	7,097	208.7	78.4	1.1	6.8	5.3
桃太郎ネクスト	2,801	145.9	80.6	0.4	2.7	2.2
麗月	7,977	168.3	91.3	1.3	7.7	7.0

※上物：A+B品、下物：C+D+外品の合計。

※1株換算収量=合計収量/10株。平均1果重=合計収量/合計果数。上物率=上物収量/合計収量×100。

1棟(165㎡)換算収量=1株換算収量×定植株数(320株)。10a換算収量=1棟換算収量/165㎡×1,000㎡。

10a換算上物数量=10a換算数量×上物率。

※計算式と数値が一致しないのは四捨五入のため。

表 3 糖度調査 (Brix%) (6 月 22 日)

品種名	糖度 (Brix%)
みそら64	5.8
CF桃太郎はるか	5.5
桃太郎ネクスト	-
麗月	5.4

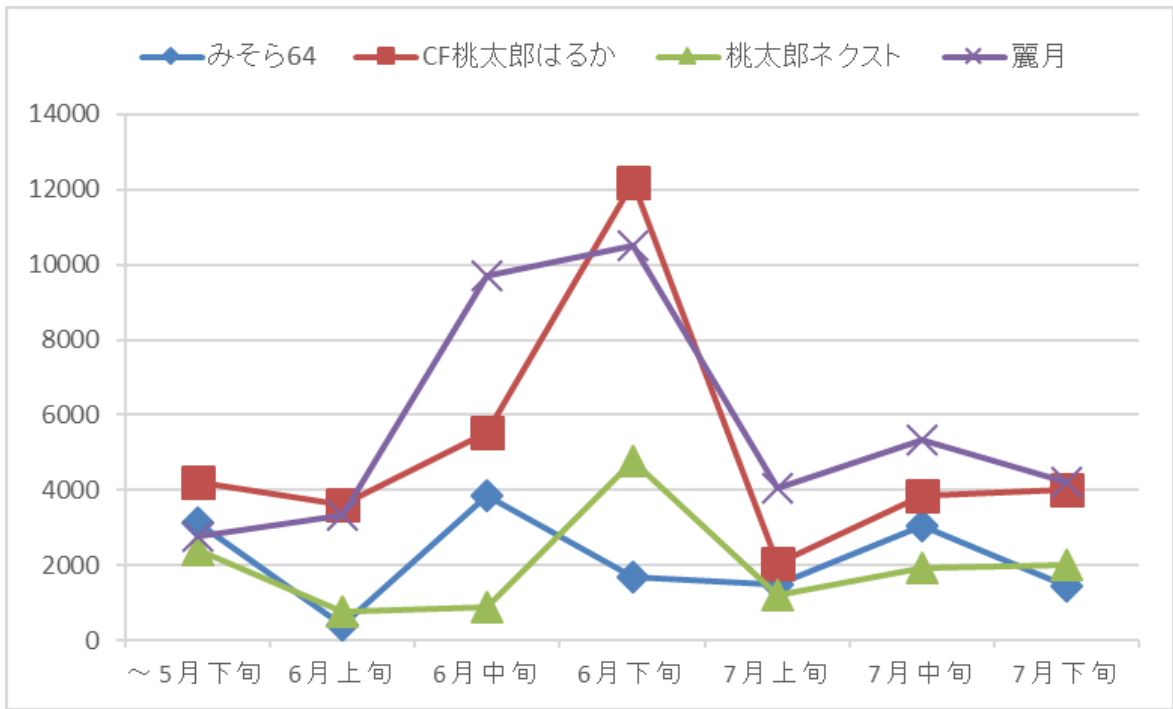


図1 旬別収量 (g) (10株当たり)

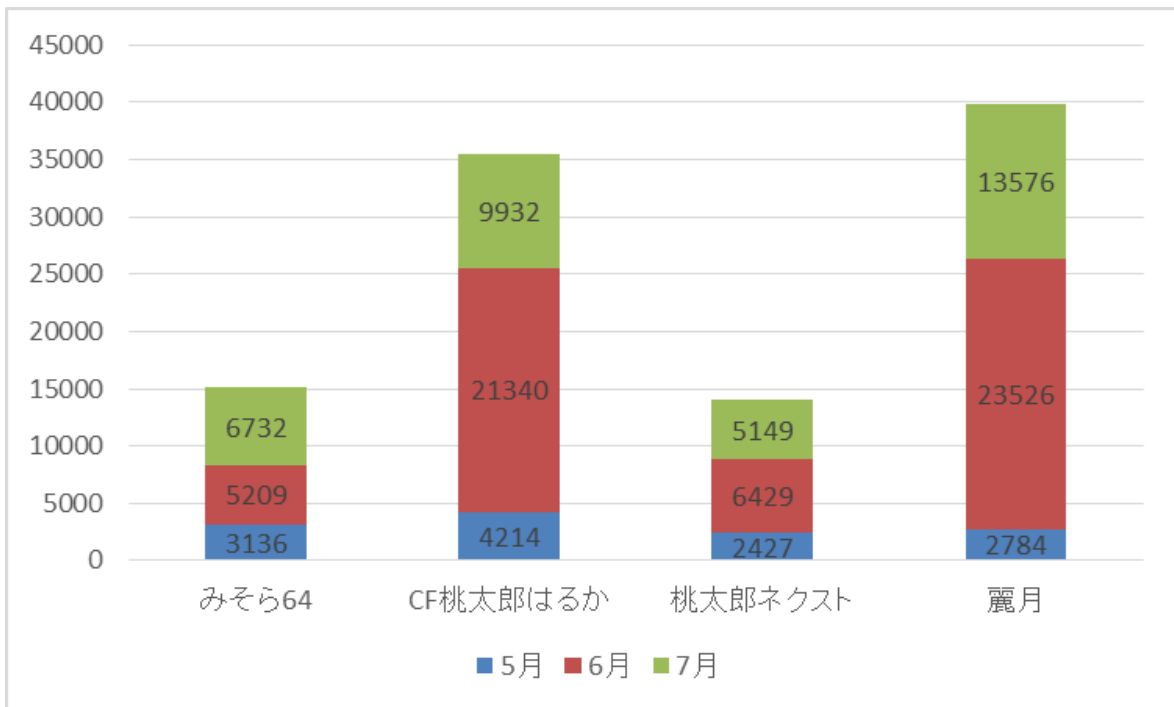


図2 月別収量 (g) (10株当たり)

施設野菜の部 No.4

項目：品種比較調査

調査名：トマトの夏秋栽培における品種比較調査（新規：令和4年度～令和6年度）

- 1 目的 トマトの夏秋栽培について品種比較調査をすることで、当地域に適した有望品種の選定を行う際の参考資料とする。

2 調査方法

- (1) 調査場所 ガラス温室7号（165 m²：約50坪）
- (2) 耕種概要
- | | |
|----------|---|
| 1) 栽培方法 | 養液土耕栽培 |
| 2) は種月日 | 令和4年2月28日（144穴トレイ） |
| 3) 移植月日 | 令和4年3月17日（12cmポット） |
| 4) 定植月日 | 令和4年4月18日 |
| 5) 育苗日数 | 49日 |
| 6) 栽植距離 | ベッド幅100cm、株間40cm、2条植え |
| 7) 定植株数 | 320株/棟 |
| 8) 施肥量 | N-P-K=2.17-1.24-3.88kg/a
【肥料】大塚養液土耕2号（14-8-25、収穫開始～）：15.5kg/a
ハイフミンハイブリッドG（微生物資材）：30kg/a、
アヅミン（Mg:3%）：3kg/a、あったかマルチ、白黒ダブルマルチ |
| 9) 使用資材 | アヅミン（Mg:3%）：3kg/a、あったかマルチ、白黒ダブルマルチ |
| 10) 収穫期間 | 令和4年6月17日～11月21日 |
| 11) 保温 | 内カーテン：令和4年4月18日～令和4年5月16日、10月11日～収穫終了日 |
| 12) 加温 | 温風暖房機（12℃設定）：令和4年4月18日～令和4年5月12日 |
| 13) 薬剤散布 | 12回（成分回数）
※うね毎に1本、株上にラノーテープ剤を設置。 |
| 14) 摘心 | 令和4年9月21日（20段程度） |
- (3) 調査区の構成
- | | |
|---------|---|
| 1) 調査区 | 5区（1区10株、1区制） |
| 2) 供試品種 | <1> みそら64（みかど協和株）
<2> ひなた（みかど協和株）
<3> 桃太郎ネクスト（タキイ種苗株）
<4> りんか409（株サカタのタネ）
<5> 麗月（株サカタのタネ） |
- (4) 調査項目 生育、収量、糖度

3 結果の概要

- (1) 本年度の結果
- 1) 生育
定植時の生育調査では、「桃太郎ネクスト」で草丈が高くなり、「ひなた」で最も低くなった。
収穫開始時の生育調査では、「桃太郎ネクスト」で草丈が最も高くなり、「りんか409」で最も低くなった。
病虫害では、終盤に葉かび病及び灰色かび病による被害が散見された。
- 2) 収量
10a 換算収量は「桃太郎ネクスト」で最も多くなった。また、月別収量で最も多かったのは、6、7月「みそら64」、8月は「桃太郎ネクスト」、9月は「りんか409」、10月以降は「みそら64」であった。
- 3) 品質
平均1果重は「ひなた」で最も大きく、「麗月」で最も小さかった。上物率は「ひなた」で高く、「りんか409」で低かった。10a 換算上物収量は「桃太郎ネクスト」で最も高かった。糖度は、「りんか409」で最も高くなり、「みそら64」で最も低くなった。
- (2) 次年度以降の計画

継続

表1 生育調査 (10株平均)

品種名		草丈 (cm)	葉数 (枚)	第1果房 の節位	節間長 (cm)	葉長 (cm)	茎径 (mm)
みそら64	定植時	50.8	8.9	5.8	-	28.2	7.0
	収穫開始時	201.8	28.4	-	7.1	44.7	16.5
ひなた	定植時	50.2	8.5	5.3	-	29.9	7.0
	収穫開始時	209.9	28.4	-	7.4	40.8	19.6
桃太郎ネクスト	定植時	57.5	8.1	5.6	-	29.1	6.0
	収穫開始時	229.7	26.9	-	8.5	49.3	17.5
りんか409	定植時	53.2	8.5	5.5	-	29.3	6.2
	収穫開始時	198.8	26.6	-	7.5	49.7	13.6
麗月	定植時	51.1	8.2	6.1	-	25.5	8.3
	収穫開始時	226.2	26.9	-	8.4	51.8	13.1

表2 収量調査 (10株平均)

品種名	上物		下物		合計	
	果数	収量(g)	果数	収量(g)	果数	収量(g)
みそら64	293	56,879	62	8,831	355	65,710
ひなた	296	59,955	48	6,470	344	66,425
桃太郎ネクスト	291	57,746	82	13,730	373	71,476
りんか409	229	44,309	96	14,811	325	59,120
麗月	332	58,224	55	7,296	387	65,520

表2つづき

品種名	1株換算 収量 (g)	平均1果 重(g)	上物率 (%)	1棟換算 収量 (t)	10a換算 収量(t)	10a換算 上物収量 (t)
みそら64	13,142	185.1	86.6	2.1	12.6	10.9
ひなた	13,285	193.1	90.3	2.1	12.8	11.5
桃太郎ネクスト	14,295	191.6	80.8	2.3	13.7	11.1
りんか409	11,824	181.9	74.9	1.9	11.4	8.5
麗月	13,104	169.3	88.9	2.1	12.6	11.2

※上物：A+B品、下物：C+D+外品の合計。

※1株換算収量=合計収量/10株。平均1果重=合計収量/合計果数。上物率=上物収量/合計収量×100。

1棟(165㎡)換算収量=1株換算収量×定植株数(320株)。10a換算収量=1棟換算収量/165㎡×1,000㎡。

10a換算上物数量=10a換算数量×上物率。

※計算式と数値が一致しないのは四捨五入のため。

表3 糖度調査 (Brix%) (7月27日)

品種名	糖度 (Brix%)
みそら64	4.9
ひなた	5.3
桃太郎ネクスト	5.2
りんか409	5.8
麗月	5.2

※5果当たりの平均値。

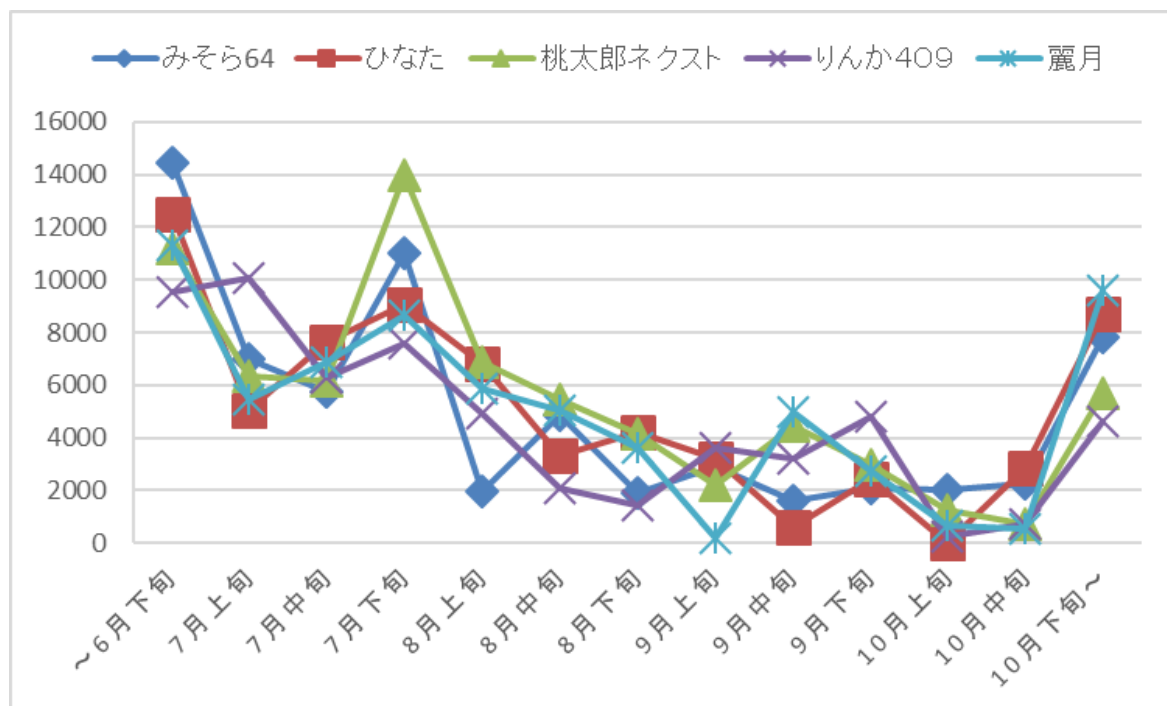


図1 旬別収量 (g) (10株当たり)



図2 月別収量 (g) (10株当たり)

施設野菜の部 No.5

項目：品種比較調査

調査名：トマトの抑制栽培における品種比較調査（新規：令和4年度～令和6年度）

- 1 目的 トマトの抑制栽培について品種比較調査をすることで、当地域に適した有望品種の選定を行う際の参考資料とする。

2 調査方法

- (1) 調査場所 ガラス温室5号（165 m²：約50坪）
- (2) 耕種概要
- 1) 栽培方法 養液土耕栽培
 - 2) は種月日 令和4年6月2日（72穴トレイ）
 - 3) 定植月日 令和4年6月21日
（前作の栽培中にその株間に定植）
 - 4) 育苗日数 19日
 - 5) 栽植距離 ベッド幅120cm、株間40cm、2条植え
 - 6) 定植株数 320株/棟
 - 7) 施肥量 N-P-K=0.24-0.33-0.40kg/a
【肥料】大塚養液土耕5号（12-20-20、～収穫前）：1.5kg
大塚養液土耕2号（14-8-25、収穫開始～）：0.4kg
 - 8) 使用資材 あったかマルチ
 - 9) 収穫期間 令和4年8月31日～11月21日
 - 10) 保温 内カーテン：10月12日～11月21日
 - 11) 加温 温風暖房機（8℃設定）：11月15日～11月21日
 - 12) 薬剤散布 8回（成分回数）
※うね毎に1本、株上にラノーテープ剤を設置。
 - 13) 摘心 令和4年9月21日（6段程度）
- (3) 調査区の構成
- 1) 調査区 5区（1区10株、1区制）
 - 2) 供試品種
<1> みそら64 （みかど協和株）
<2> ひなた （みかど協和株）
<3> 桃太郎ネクスト （タキイ種苗株）
<4> りんか409 （株サカタのタネ）
<5> 麗月 （株サカタのタネ）
- (4) 調査項目 生育、収量、糖度

3 結果の概要

- (1) 本年度の結果
- 1) 生育
収穫開始時の生育調査では、「麗月」で草丈が最も高くなり、「ひなた」で最も低くなった。
病虫害では、生育中期に灰色かび病及び葉かび病による被害が散見された他、ネコブセンチュウによる被害により、草勢の低下につながった。
 - 2) 収量
10a 換算収量は「ひなた」で最も多かった。また月別収量で最も多かったのは、9月では「ひなた」、10月では「りんか409」、11月は「ひなた」であった。
 - 3) 品質
平均1果重は「ひなた」で最も大きく、「桃太郎ネクスト」で最も小さかった。上物率は「麗月」で高く、「りんか409」で低かった。10a 換算上物収量は「ひなた」で最も高かった。
糖度は、「りんか409」で最も高く、「桃太郎ネクスト」で最も低かった。
- (2) 次年度以降の計画
継続

表 1 生育調査（収穫開始、10 株平均）

品種名	草丈 (cm)	葉数 (枚)	節間長 (cm)	葉長 (cm)	茎径 (mm)
みそら64	225.8	25.0	9.0	43.5	9.5
ひなた	197.7	23.4	8.4	45.0	10.1
桃太郎ネクスト	216.3	20.7	10.4	45.4	6.3
りんか409	228.7	23.3	9.8	45.0	9.1
麗月	230.4	22.5	10.2	43.4	7.7

表 2 収量調査（10 株当たり）

品種名	上物		下物		合計	
	果数	収量(g)	果数	収量(g)	果数	収量(g)
みそら64	76	11,923	28	3,214	104	15,137
ひなた	103	17,515	38	5,182	141	22,697
桃太郎ネクスト	36	4,229	16	1,513	52	5,742
りんか409	70	11,037	54	7,089	124	18,126
麗月	98	15,196	36	3,344	134	18,540

表 2 つづき

品種名	1株換算 収量 (g)	平均1果 重(g)	上物率 (%)	1棟換算 収量 (t)	10a換算 収量(t)	10a換算 上物収量 (t)
みそら64	3,027	145.5	78.8	0.5	2.9	2.3
ひなた	4,539	161.0	77.2	0.7	4.4	3.4
桃太郎ネクスト	1,148	110.4	73.7	0.2	1.1	0.8
りんか409	3,625	146.2	60.9	0.6	3.5	2.1
麗月	3,708	138.4	82.0	0.6	3.6	2.9

※上物：A+B品、下物：C+D+外品の合計。

※1株換算収量=合計収量/10株。平均1果重=合計収量/合計果数。上物率=上物収量/合計収量×100。

1棟（165㎡）換算収量=1株換算収量×定植株数（320株）。10a換算収量=1棟換算収量/165㎡×1,000㎡。

10a換算上物数量=10a換算数量×上物率。

※計算式と数値が一致しないのは四捨五入のため。

表 3 糖度調査（Brix %、5 果平均、11 月 14 日）

品種名	糖度 (Brix%)
みそら64	5.8
ひなた	6.0
桃太郎ネクスト	5.7
りんか409	6.1
麗月	5.9

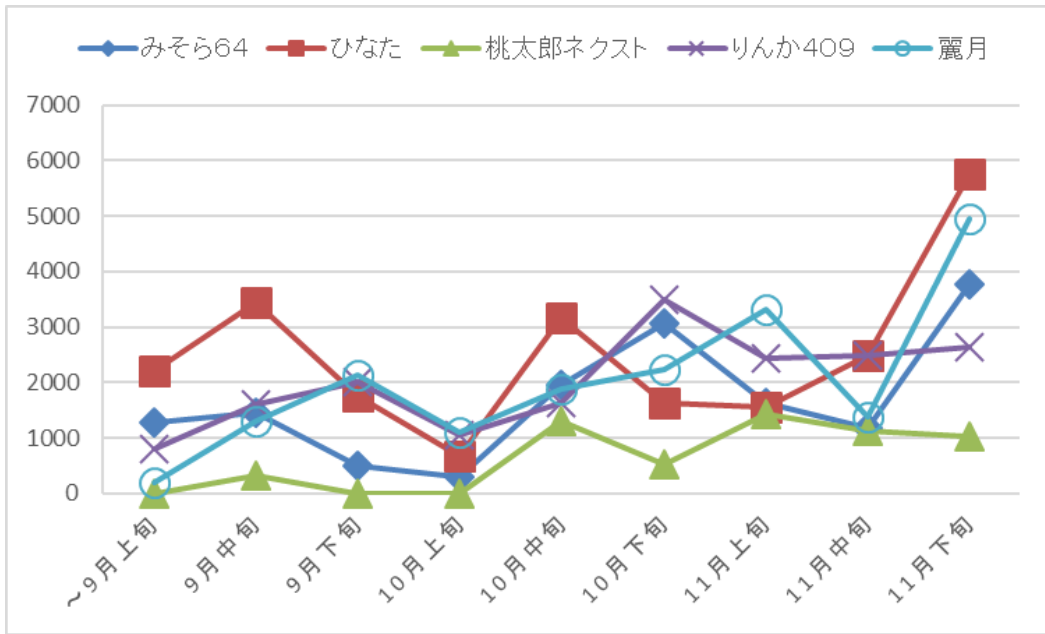


図1 旬別収量 (g) (10株当たり)

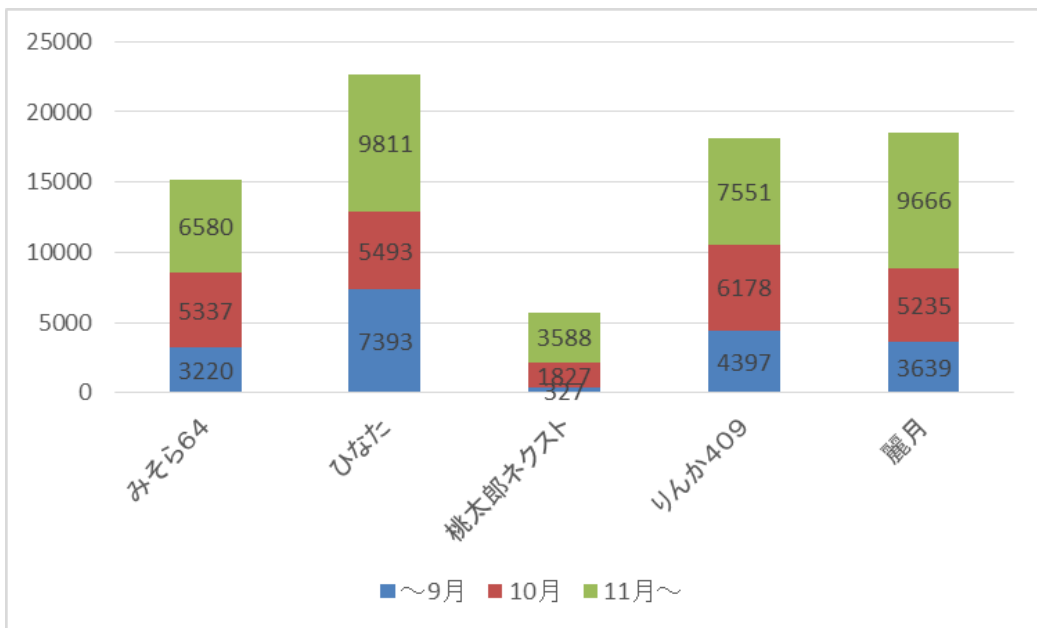


図2 月別収量 (g) (10株当たり)

施設野菜の部 No.6

項目：品種比較調査

調査名：ミニトマトの促成栽培における品種比較調査（新規：令和4年度～令和6年度）

1 目的 ミニトマトの促成栽培について品種比較調査をすることで、当地域に適した有望品種の選定を行う際の参考資料とする。

2 調査方法

- (1) 調査場所 パイプハウス2号（132㎡：約40坪）
- (2) 耕種概要
- | | |
|----------|--|
| 1) 栽培方法 | 養液土耕栽培 |
| 2) は種月日 | 令和3年12月27日（144穴トレイ） |
| 3) 移植月日 | 令和4年1月21日（12cmポット） |
| 4) 定植月日 | 令和4年2月21日 |
| 5) 栽植距離 | ベッド幅100cm、株間40cm、2条植え |
| 6) 育苗日数 | 56日 |
| 7) 定植株数 | 228株/棟 |
| 8) 施肥量 | N-P-K=1.29-1.21-2.25
【肥料】大塚養液土耕5号（12-20-20、～収穫前）：3.6kg/a
大塚養液土耕2号（14-8-25、収穫開始～）：6.1kg/a |
| 9) 使用資材 | ハイフミンハイブリッドG（微生物資材）：30kg/a、
アヅミン（Mg:3%）：3kg/a、あつたかマルチ、白黒ダブルマルチ |
| 10) 収穫期間 | 令和4年5月9日～7月29日 |
| 11) 保温 | 内カーテン：令和4年2月21日～令和4年5月16日 |
| 12) 加温 | 温風暖房機（12℃設定）：令和4年2月21日～令和4年5月12日 |
| 13) 薬剤散布 | 5回（成分回数）
※うね毎に1本、株上にラノーテープ剤を設置。 |
| 14) 摘心 | 令和4年5月31日（8段程度） |
- (3) 調査区の構成
- | | |
|---------|--|
| 1) 調査区 | 5区（1区5株、1区制） |
| 2) 供試品種 | <1> キャロル10 (株サカタのタネ)
<2> キャロルスター (株サカタのタネ)
<3> キャロルムーン (株サカタのタネ)
<4> C7-276 (株サカタのタネ)
<5> サンチェリーピュア (トキタ種苗株) |
- (4) 調査項目 生育、収量、糖度

3 結果の概要

- (1) 本年度の結果
- 1) 生育
定植時の生育調査では、「キャロルスター」、「キャロル10」で草丈が高くなり、「サンチェリーピュア」で最も低くなった。
収穫開始時の生育調査では、「キャロル10」で草丈が最も高くなり、「キャロルムーン」で最も低くなった。また、最も節間が短かったのは「キャロルムーン」であった。
病害虫については、生育後半に葉かび病の発生が認められた。
- 2) 収量
10a換算収量は「サンチェリーピュア」で最も多かった。また月別収量で最も多かったのは、5、6月では「サンチェリーピュア」、7月では「キャロルムーン」であった。
- 品質
- 3) 平均1果重は「キャロルムーン」で最も大きくなり、「キャロル10」で最も小さかった。上物率は「C7-276」で最も高く、「キャロルムーン」で最も低かった。10a換算上物収量は「サンチェリーピュア」で最も高かった。
糖度は、「C7-276」で高かった。
- (2) 次年度以降の計画

継続

表1 生育調査 (5株平均)

品種名		草丈 (cm)	葉数 (枚)	第1果房 の節位	節間長 (cm)	葉長 (cm)	茎径 (mm)
キャロル10	定植時	41.1	10.4	7.2	-	23.8	6.2
	収穫開始時	233.4	24.2	-	9.6	34.0	12.9
キャロルスター	定植時	41.4	10.4	7.2	-	23.8	6.2
	収穫開始時	209.0	27.8	-	7.5	33.2	11.2
キャロルムーン	定植時	37.8	10.8	6.8	-	23.8	7.0
	収穫開始時	185.4	25.2	-	7.4	38.0	12.2
C7-276	定植時	37.6	10.4	7.4	-	23.2	6.8
	収穫開始時	189.8	25.4	-	7.5	27.8	12.2
サンチェリー	定植時	34.6	11.2	7.0	-	22.4	5.9
ピュア	収穫開始時	200.0	25.8	-	7.8	31.4	12.5

表2 収量調査 (5株当たり)

品種名	2L(21g以上)		L(15~21g未満)		M(11~15g未満)		S(7~11g未満)		2S(5~7g)	
	果数	収量(g)	果数	収量(g)	果数	収量(g)	果数	収量(g)	果数	収量(g)
キャロル10	7	146	102	1,669	359	4,553	727	6,392	338	2,083
キャロルスター	9	207	184	3,179	609	7,855	320	2,974	33	198
キャロルムーン	256	6,133	373	6,520	165	2,128	59	378	12	68
C7-276	15	337	241	4,110	501	6,614	183	1,749	20	130
サンチェリーピュア	24	543	356	6,034	587	7,603	266	2,473	29	177

表2つづき

品種名	上物小計		下物		合計(上+下)		1株換算 収量 (g)	平均1 果重 (g)	上物率 (%)	LM率 (%)
	果数	収量(g)	果数	収量(g)	果数	収量(g)				
キャロル10	1,533	14,843	111	625	1,644	15,468	3,094	9.4	96.0	41.9
キャロルスター	1,155	14,413	96	1,019	1,251	15,432	3,086	12.3	93.4	76.6
キャロルムーン	865	15,227	73	1,379	938	16,606	3,321	17.7	91.7	56.8
C7-276	960	12,940	38	439	998	13,379	2,676	13.4	96.7	82.9
サンチェリーピュア	1,262	16,830	96	1,340	1,358	18,170	3,634	13.4	92.6	81.0

表2つづき

品種名	1棟換算 収量 (kg)	10a換算 収量 (t)	10a換算 上物収量 (t)
キャロル10	705	5.3	5.1
キャロルスター	704	5.3	5.0
キャロルムーン	757	5.7	5.3
C7-276	610	4.6	4.5
サンチェリーピュア	829	6.3	5.8

※上物：A品、下物：B品+外品。

※1株換算収量=合計収量/5株。平均1果重=合計収量/合計果数。

上物率=上物収量/合計収量。LM率=(L品収量+M品収量)/合計収量。

1棟換算収量=1株換算収量×228株(定植株数)。10a換算収量=1棟換算収量/132㎡×1,000㎡

10a換算上物数量=10a換算数量×上物率。

※計算式と数値が一致しないのは四捨五入のため。

表3 糖度調査 (Brix%、5果平均) (6月10日)

品種名	糖度
キャロル10	7.4
キャロルスター	-
キャロルムーン	7.6
C7-276	7.8
サンチェリーピュア	6.7

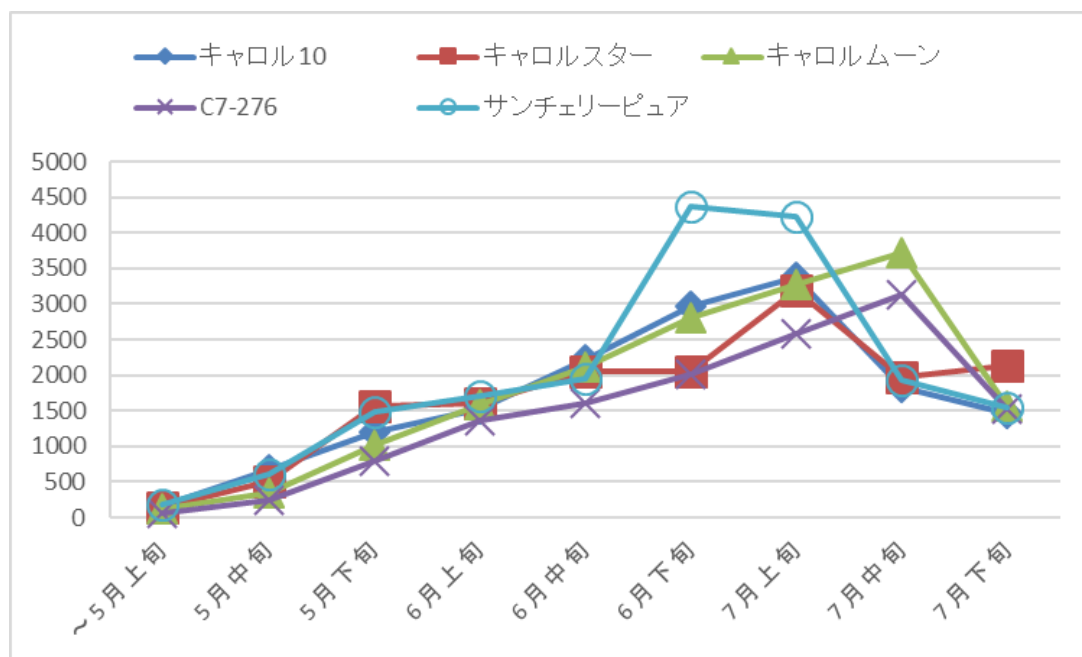


図1 旬別収量 (g) (5果当たり)

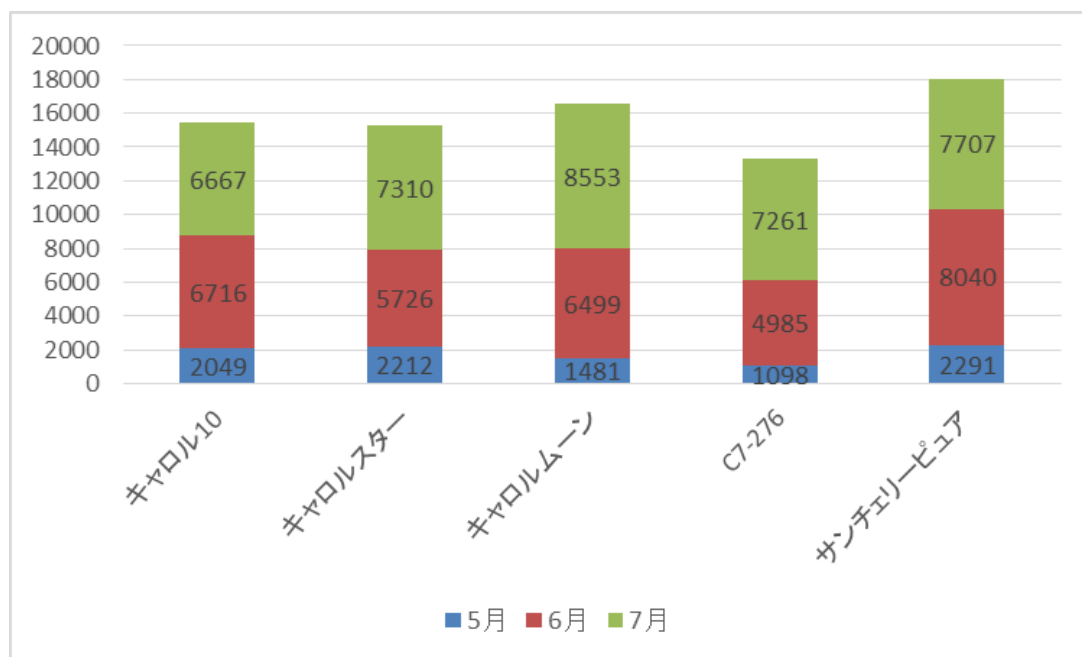


図2 月別収量 (g) (5株当たり)

施設野菜の部 No.7

項目：品種比較調査

調査名：ミニトマトの夏秋栽培における品種比較調査（新規：令和4年度～令和6年度）

1 目的 ミニトマトの夏秋栽培について品種比較調査をすることで、当地域に適した有望品種の選定を行う際の参考資料とする。

2 調査方法

- (1) 調査場所 パイプハウス1号（132 m²：約40坪）
- (2) 耕種概要
- | | |
|----------|---|
| 1) 栽培方法 | 養液土耕栽培 |
| 2) は種月日 | 令和4年2月28日（144穴トレイ） |
| 3) 移植月日 | 令和4年3月17日（12cmポット） |
| 4) 定植月日 | 令和4年4月12日 |
| 5) 栽植距離 | ベッド幅100cm、株間40cm、2条植え |
| 6) 育苗日数 | 43日 |
| 7) 定植株数 | 228株/棟 |
| 8) 施肥量 | N-P-K=2.36-1.56-4.20
【肥料】大塚養液土耕5号（12-20-20、～収穫前）：1.6kg/a
大塚養液土耕2号（14-8-25、収穫開始～）：15.5kg/a |
| 9) 使用資材 | ハイフミンハイブリッドG（微生物資材）：30kg/a、
アヅミン（Mg:3%）：3kg/a、あつたかマルチ |
| 10) 収穫期間 | 令和4年6月13日～11月28日 |
| 11) 保温 | 内カーテン：令和4年4月12日～令和4年5月16日、10月12日～11月28日 |
| 12) 加温 | 温風暖房機（12℃設定）：令和4年4月12日～令和4年5月12日 |
| 13) 薬剤散布 | 11回（成分回数）
※うね毎に1本、株上にラノーテープ剤を設置。 |
| 14) 摘心 | 令和4年9月21日（20段程度） |
- (3) 調査区の構成
- | | |
|---------|--|
| 1) 調査区 | 8区（1区5株、1区制） |
| 2) 供試品種 | <1> キャロル10 (株サカタのタネ)
<2> キャロルスター (株サカタのタネ)
<3> キャロルムーン (株サカタのタネ)
<4> C7-276 (株サカタのタネ)
<5> サンチェリーピュア (トキタ種苗株)
<6> サマー千果 (タキイ種苗株)
<7> アイラ (株武蔵野種苗園)
<8> T833 (みかど協和株) |
- (4) 調査項目 生育、収量、糖度

3 結果の概要

- (1) 本年度の結果
- 1) 生育
定植時の生育調査では、「サンチェリーピュア」、「C7-276」で草丈が高くなり、「キャロル10」で最も低くなった。
収穫開始時の生育調査では、「キャロル10」で草丈が最も高くなり、「T833」で最も低くなった。また、最も節間が短かったのは「サンチェリーピュア」であった。病害虫については、葉かび病及び品種によって斑点病の発生が見られた。
- 2) 収量
10a 換算収量は「サンチェリーピュア」で最も多かった。また月別収量で最も多かったのは、6、7月では「キャロル10」、8月では「サマー千果」、9月では「サンチェリーピュア」、10月以降では「T833」であった。
- 3) 品質
平均1果重は「サマー千果」で最も大きくなり、「キャロル10」で最も小さくなった。

上物率は「キャロルスター」「C7-276」で最も高くなり、「キャロルムーン」で最も低くなった。10a 換算上物収量は「サンチェリーピュア」で最も高くなった。

糖度は、「キャロルスター」で高い結果となった。

- (2) 次年度以降の計画
継続

表 1 生育調査 (5 株平均)

品種名		草丈 (cm)	葉数 (枚)	第 1 果房 の節位	節間長 (cm)	葉長 (cm)	茎径 (mm)
キャロル 10	定植時	49.8	8.8	-	-	24.6	6.2
	収穫開始時	208.4	26.6	-	7.8	39.6	14.6
キャロルスター	定植時	51.6	8.2	-	-	25.6	5.5
	収穫開始時	190.6	27.0	-	7.1	34.2	-
キャロルムーン	定植時	51.4	7.8	-	-	23.2	6.4
	収穫開始時	185.0	23.6	-	7.8	23.6	-
C7-276	定植時	56.0	8.2	-	-	25.2	6.5
	収穫開始時	191.4	26.2	-	7.3	34.6	-
サンチェリーピ ュア	定植時	58.4	9.0	-	-	24.2	6.0
	収穫開始時	191.0	27.6	-	6.9	35.4	11.9
サマー千果	定植時	51.8	8.0	-	-	27.4	6.2
	収穫開始時	170.0	24.0	-	7.1	33.2	-
アイラ	定植時	52.8	8.8	-	-	23.6	6.3
	収穫開始時	172.6	23.4	-	7.4	38.4	12.2
T833	定植時	52.0	8.2	-	-	25.3	6.5
	収穫開始時	163.0	23.4	-	7.0	42.4	-

表2 収量調査 (5株当たり)

品種名	2L(21g以上)		L(15~21g未満)		M(11~15g未満)		S(7~11g未満)		2S(5~7g)	
	果数	収量(g)	果数	収量(g)	果数	収量(g)	果数	収量(g)	果数	収量(g)
キャロル10	32	735	224	3,983	439	5,384	671	5,885	237	1,430
キャロルスター	26	587	361	6,245	491	6,587	181	1,737	33	197
キャロルムーン	156	3,792	369	6,573	254	3,336	169	1,648	30	174
C7-276	54	1,043	269	4,449	439	5,494	371	3,449	63	389
サンチェリーピュア	143	3,255	465	8,067	507	6,574	217	2,079	25	146
サマー千果	153	3,486	538	9,358	361	4,849	69	627	10	58
アイラ	114	2,710	316	5,596	304	3,838	173	1,651	27	163
T833	17	382	276	4,683	560	7,042	513	4,871	78	480

表2つづき

品種名	上物小計		下物		合計(上+下)		1株換算 収量 (g)	平均1 果重 (g)	上物率 (%)	LM率 (%)
	果数	収量(g)	果数	収量(g)	果数	収量(g)				
キャロル10	1,603	17,417	82	706	1,685	18,123	3,625	10.8	96.1	53.8
キャロルスター	1,092	15,353	54	535	1,146	15,888	3,178	13.9	96.6	83.6
キャロルムーン	978	15,523	85	1,284	1,063	16,807	3,361	15.8	92.4	63.8
C7-276	1,196	14,824	36	515	1,232	15,339	3,068	12.5	96.6	67.1
サンチェリーピュア	1,357	20,121	92	1,096	1,449	21,217	4,243	14.6	94.8	72.8
サマー千果	1,131	18,378	85	1,284	1,216	19,662	3,932	16.2	93.5	77.3
アイラ	934	13,958	66	1,132	1,000	15,090	3,018	15.1	92.5	67.6
T833	1,444	17,458	92	1,096	1,536	18,554	3,711	12.1	94.1	67.2

表2つづき

品種名	1株換算	10a換算	10a換算
	収量 (kg)	収量 (t)	上物収量 (t)
キャロル10	826	6.3	6.0
キャロルスター	724	5.5	5.3
キャロルムーン	766	5.8	5.4
C7-276	699	5.3	5.1
サンチェリーピュア	967	7.3	7.0
サマー千果	897	6.8	6.3
アイラ	688	5.2	4.8
T833	846	6.4	6.0

※上物：A品、下物：B品+外品。

※1株換算収量=合計収量/5株。平均1果重=合計収量/合計果数。

上物率=上物収量/合計収量。LM率=(L品収量+M品収量)/合計収量。

1株換算収量=1株換算収量×228株(定植株数)。10a換算収量=1株換算収量/132㎡×1,000㎡

10a換算上物数量=10a換算数量×上物率。

※計算式と数値が一致しないのは四捨五入のため。

表3 糖度調査 (Brix%、5果平均) (7月25日)

品種名	糖度
キャロル10	6.9
キャロルスター	7.7
キャロルムーン	-
C7-276	7.1
サンチェリーピュア	6.1
サマー千果	7.3
アイラ	6.3
T833	7.0

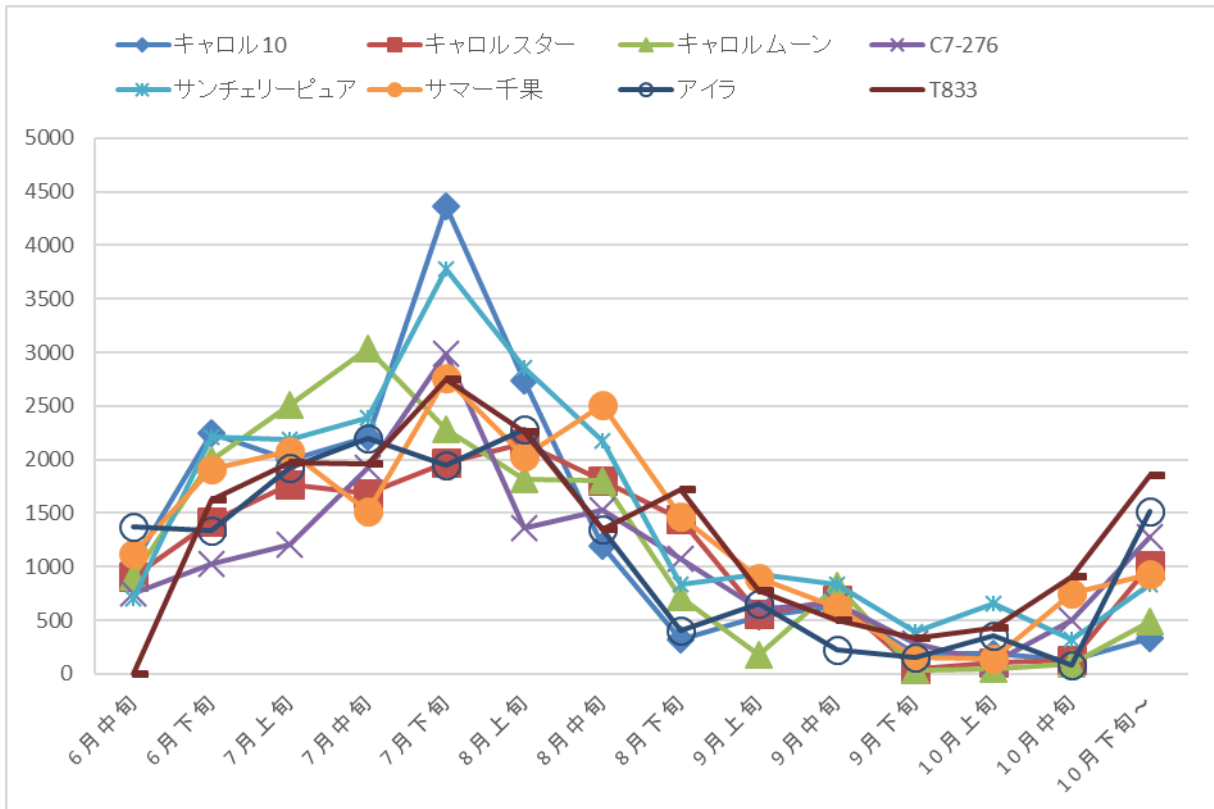


図1 旬別収量 (g) (5株当たり)

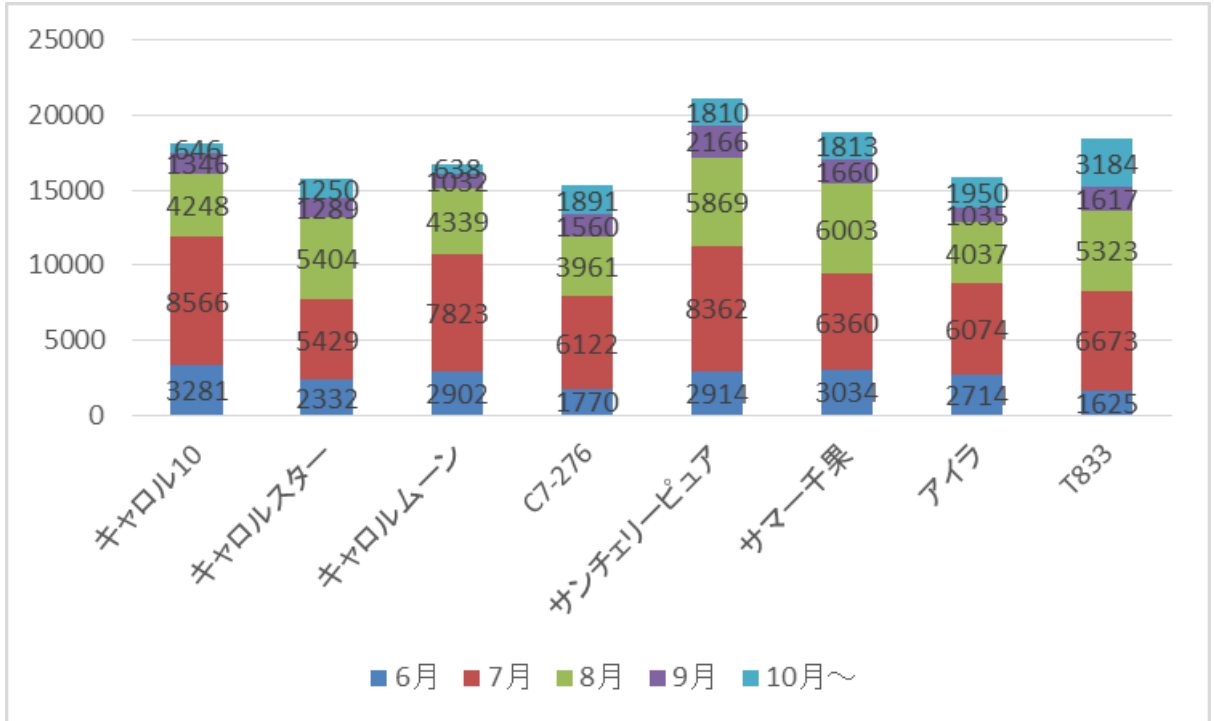


図2 月別収量 (g) (5株当たり)

施設野菜の部 No.8

項目：品種比較調査

調査名：ミニトマトの抑制栽培における品種比較調査（新規：令和4年度～令和6年度）

1 目的 ミニトマトの抑制栽培について品種比較調査をすることで、当地域に適した有望品種の選定を行う際の参考資料とする。

2 調査方法

- (1) 調査場所 パイプハウス2号（132㎡：約40坪）
- (2) 耕種概要
- 1) 栽培方法 養液土耕栽培
 - 2) は種月日 令和4年6月2日（72穴トレイ）
 - 3) 定植月日 令和4年6月21日
（前作の栽培中にその株間に定植）
 - 4) 育苗日数 19日
 - 5) 栽植距離 ベッド幅100cm、株間40cm、2条植え
 - 6) 定植株数 228株/棟
 - 7) 施肥量 N-P-K=0.30-0.38-0.52kg/a
【肥料】大塚養液土耕5号（12-20-20、～収穫前）：1.6kg/a
大塚養液土耕2号（14-8-25、～収穫開始）：0.8kg/a
 - 8) 使用資材 あったかマルチ
 - 9) 収穫期間 令和4年8月31日～12月2日
 - 10) 保温 内カーテン：10月12日～12月2日
 - 11) 加温 温風暖房機（8℃設定）：11月15日～12月2日
 - 12) 薬剤散布 7回（成分回数）
※うね毎に1本、株上にラノーテープ剤を設置。
 - 13) 摘心 令和4年9月21日（6段程度）
- (3) 調査区の構成
- 1) 調査区 6区（1区5株、1区制）
 - 2) 供試品種
<1> キャロル10 (株サカタのタネ)
<2> キャロルスター (株サカタのタネ)
<3> キャロルムーン (株サカタのタネ)
<4> C7-276 (株サカタのタネ)
<5> サンチェリーピュア (トキタ種苗株)
<6> T833 (みかど協和株)
- (4) 調査項目 生育、収量、糖度

3 結果の概要

- (1) 本年度の結果
- 1) 生育
収穫時の生育調査では、草丈は「C7-276」が最も高く、「キャロルスター」で最も低かった。茎径では「C7-276」が最も太く、「T833」で最も細かった。また、節間が最も短かったのは「キャロルスター」であった。
病害虫については、生育期中期から後期にかけて、葉かび病および斑点病が多発したため生育や収量に大きく影響を及ぼした。
 - 2) 収量
10a 換算収量は「サンチェリーピュア」で最も多かった。また月別収量で最も多かったのは、9月では「サンチェリーピュア」、10月では「キャロルムーン」、11月では「キャロルムーン」と「C7-276」が高かった。
 - 3) 品質
平均1果重は「キャロルムーン」で最も大きく、「キャロル10」で最も小さかった。上物率は「C7-276」で最も高く、「キャロルスター」で最も低かった。10a 換算上物収量は「サンチェリーピュア」で最も高かった。
糖度は「キャロル10」で最も高く、「サンチェリーピュア」で最も低かった。

(2) 次年度以降の計画
継続

表1 生育調査（収穫開始時、5株平均）

	草丈 (cm)	葉数 (枚)	節間長 (cm)	葉長 (cm)	茎径 (mm)
キャロル10	243.2	27.6	8.8	36.6	7.6
キャロルスター	203.2	25.4	8.0	34.6	6.6
キャロルムーン	248.8	28.2	8.8	38.8	7.6
C7-276	277.0	31.4	8.8	40.2	9.3
サンチェリーピュア	260.4	31.8	8.2	42.2	8.1
T833	206.2	24.6	8.4	36.2	6.0

表2 収量調査（5株当たり）

品種名	2L(21g以上)		L(15~21g未満)		M(11~15g未満)		S(7~11g未満)		2S(5~7g)	
	果数	収量(g)	果数	収量(g)	果数	収量(g)	果数	収量(g)	果数	収量(g)
キャロル10	0	0	14	215	20	229	220	1,851	92	542
キャロルスター	0	0	6	95	27	312	107	935	53	311
キャロルムーン	35	752	225	3,917	136	1,813	45	421	5	29
C7-276	5	107	115	1,943	229	2,926	192	1,806	16	97
サンチェリーピュア	5	107	109	1,856	289	3,685	147	1,359	22	128
T833	0	0	28	460	90	1,130	88	795	13	76

表2つづき

品種名	上物小計		下物		合計(上+下)		1株換算 収量 (g)	平均1 果重 (g)	上物率 (%)	LM率 (%)
	果数	収量(g)	果数	収量(g)	果数	収量(g)				
キャロル10	346	2,837	51	233	397	3,070	614	7.7	92.4	15.7
キャロルスター	193	1,653	44	285	237	1,938	388	8.2	85.3	24.6
キャロルムーン	446	6,932	11	130	457	7,062	1,412	15.5	98.2	82.7
C7-276	557	6,879	11	121	568	7,000	1,400	12.3	98.3	70.8
サンチェリーピュア	572	7,135	12	141	584	7,276	1,455	12.5	98.1	77.7
T833	219	2,461	12	141	231	2,602	520	11.3	94.6	64.6

表2つづき

品種名	1棟換算	10a換算	10a換算
	収量 (kg)	収量 (t)	上物収量 (t)
キャロル10	140	1.1	1.0
キャロルスター	88	0.7	0.6
キャロルムーン	322	2.4	2.4
C7-276	319	2.4	2.4
サンチェリーピュア	332	2.5	2.5
T833	119	0.9	0.9

※上物：A品、下物：B品+外品。

※1株換算収量=合計収量/5株。平均1果重=合計収量/合計果数。

上物率=上物収量/合計収量。LM率=(L品収量+M品収量)/合計収量。

1棟換算収量=1株換算収量×228株(定植株数)。10a換算収量=1棟換算収量/132㎡×1,000㎡

10a換算上物数量=10a換算数量×上物率。

※計算式と数値が一致しないのは四捨五入のため。

表3 糖度調査 (Brix %、5果平均) (11月18日)

品種名	糖度
キャロル10	8.4
キャロルスター	8.2
キャロルムーン	7.5
C7-276	8.3
サンチェリーピュア	6.6
T833	7.5

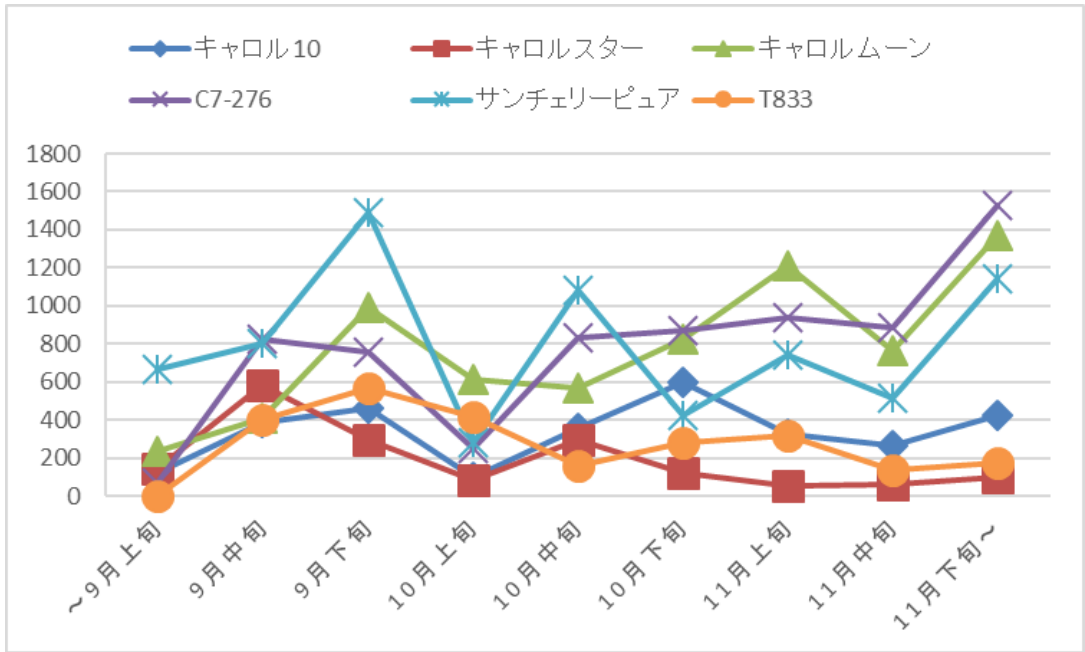


図1 旬別収量 (g) (5株当たり)

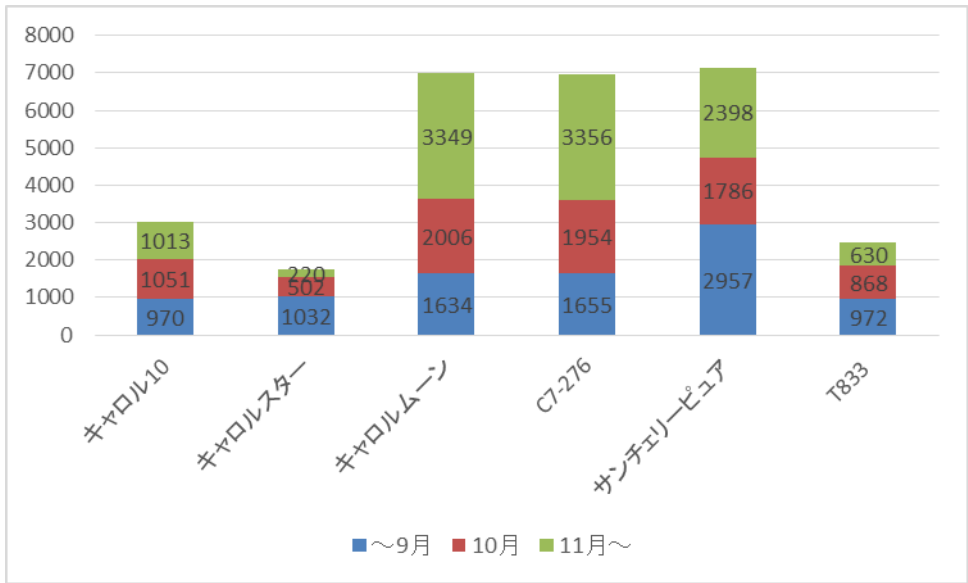


図2 月別収量 (g) (5株当たり)